

1 学校教育目標

「伝統・文化を大切にし、心豊かで、心身共にたくましい、東部っ子の育成」
 ①自ら学ぶ子ども ……めあてを持って学習に臨み、自分の考えを持ち、学びながら交流を愉しむ。
 ②豊かに薫る子ども ……自然豊かな郷土にあって、読書に親しみ、知識・技能を深めるとも、思いやりのある心・感動する心を持つ。
 ③逞しく生きる子ども ……厳しい自然の下、武道の精神を学び、礼節を重んじる。

2 学校経営ビジョン

①児童も職員も安心して通える、一人一人に居場所のある学校づくりをめざす。
 ②小規模校のよさを生かし、全ての児童を全ての職員が協働して育てる。
 ③学校と保護者、地域社会が連携を深め、児童の健全な育成を図る。
 ④職員の資質向上を図る。

3 本年度の重点目標

学校教育目標『伝統・文化を大切にし、心豊かで、心身共にたくましい、東部っ子の育成』から、小規模小集団の中でも、ふるさとを愛し、社会性を身につけたたくましい児童の育成を図って行く。そのために以下のような重点項目に力を入れて取り組んでいく。
 ①山村留学制度の充実
 ②命と人権教育の推進
 ③生活の約束『4つのあ』のあいさつ・あんぜん・ありがとう・あとかたづけ活動の推進
 ④幼保小連携や小中連携教育の推進
 ⑤ふるさと体験活動の充実
 ⑥校内研究の推進
 ⑦ICTを活用した授業の推進
 ⑧共に高め合う「スピーチタイム」や「プレゼンタイム」の充実
 ⑨外国語活動の時間の充実
 ⑩武道（剣道）教育の充実

4 前年度の成果と課題

◆ 学力向上のため、基礎的・基本的な面ではこれまでの方策を引き続き継続的に行っていく必要がある。活用力・応用力を育むためには何よりも授業の質を更に高めていくことが必要である。来年度は、学年別複式指導の確立をめざした校内研究を進め、個々の授業について振り返り・検討・改善といったことについて職員相互が協力して取り組んでいきたい。
 ◆ 小学生新聞の活用など、今後も知識基盤社会に対応できるよう、社会常識や情報社会に明るい児童の育成に、より一層力をいれていきたい。
 ◆ 地元児童・山村留學生が共に切磋琢磨して成長していくために、児童理解を更に細やかに、個々の場面においても共通した指導・支援が行われるように教育相談を進めていきたい。
 ◆ 「開かれた学校」を推進するため、山村留学会ととのさらなる連携・協働による「地域密着型の学校」の良さや学校の教育活動について、校区内を中心としてアピールを積極的に行っていきたい。
 ◆ 地域連携については、これまでの取組に加え、地域人材での山村留学支援ボランティア人材バンクの洗い出しや体制づくり、さらに充実した活動を実施していきたい。地域の方々や児童・職員の交流について更に工夫していくことが求められる。

5 総括表

① あらゆる場面で自信を持って自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○教員の資質向上	授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 自分の授業を振り返り、指導技能の向上に努める。 校内研究を通して学習過程の在り方を明確にする。 全員研究授業を1回以上行う。 	教頭 研究主任 (吉浦)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の授業を記録にとり、自己授業評価シートで振り返ることで、自己研鑽を深める。 校内研究で全員授業を行い、事後の研究会の中で検証しあい、授業力を高める。 講師を招聘し、研究会を充実したものにする。 各種研修会への参加を奨励する。 全校スピーチにおける指導やプレゼンタイムを充実させ、技能の向上とともに意欲喚起を図る。 小学生新聞を購読したり、国語辞典を常時置いたり、「きらきら算数コーナー」を設置したりと、環境面で学びの刺激的サポートを講じる。
教育活動	●学力の向上	個に応じたきめ細かな指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「井原山チャレンジ(完全習得ドリル学習)」で全員90点以上をめざす。 年4回のパフォーマンス評価で8割の児童の結果を向上させる。 	学力向上 コーディネーター (吉浦・中野)	<ul style="list-style-type: none"> 国語タイムを有効に活用し、繰り返し学習を行い、学習内容の定着を図る。 毎日の家庭学習についても個に応じた課題を出し、日常的に丁寧な対応を行う。加えて、自主学習を奨励し、手立てを講じる。 県の学習状況調査やCRT学力検査の結果の考察を行い、指導に生かす。 自分の考えを書いたり説明したりする、ノート指導の手立てを工夫する。
		読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 児童の100冊以上(おすすめの本を含む)読書量を目指す。児童の達成率100%。 読書のジャンルを広げ、質の向上をめざす。 	図書主任 図書館司書 (大野・姉川)	<ul style="list-style-type: none"> 毎週月曜日に朝読書・読み語り(ボランティア)を実施する。 多読者の紹介(図書館だより)・表彰をする。 図書館祭り・各図書館系募集等を利用して全分類の図書の貸し出しができるような取り組みを行う。 学年に応じた「おすすめの本」を紹介し、読書の質の向上を図る。
	●ICT活用教育の推進	電子黒板やデジタル教材の活用	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書等を利用した教材提示を行い、児童の興味関心や理解を高める授業を実践する。 全学級で情報モラルの授業を実践する。 	情報教育 担当 (大野)	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用教育に係る職員研修を実施する。 情報モラルに係る研修会・講話を実施する。
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化のために、家庭と連携して、生活・音読点検を徹底する。 	低学年 担任 (大野)	<ul style="list-style-type: none"> 職員・児童に周知徹底し、授業・帰りの会等で全職員で指導し、あらゆる機会に「まっすぐ拳手・はっきり」「まいいと返事・すっと起立」の3点についての評価を行う。 音読カードを配布し、毎日点検し、表現力の向上を図る。 プレゼンタイムなど様々な発表の場を設け、意欲を持たせる。
	○幼保小中連携	中山間地域の近隣の保小中との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の保小中それぞれと3回以上の連携に関する活動を行う。 総合的な学習・生活科との関連を図り、郷土の良さを伝えようとする意欲を育てる。 	低学年 担任 (大野)	<ul style="list-style-type: none"> 北部保育園と行事を中心に交流活動を年3回以上行う。 北山中、三瀬中と年2回以上の教育相談活動を行う。 鬼火小屋作りや鬼火焚きなどの地域の伝統的な行事を取り上げ近隣の学校に向けてアピールする。

② 規律正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	全校剣道の充実	・剣道を通して自分の体力づくりに関心をもたせ、進んで運動をする態度を育てる。 ・剣道を通して礼儀正しい態度を身に着けさせる。	剣道担当 (角)	・剣道ノートを利用して、自分の目標や稽古について振り返らせ、運動に対する意欲を高めさせる。 ・生活の場で礼儀正しい態度で過ごせたことを賞賛する。
		望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食の内容・重要性について、学年に応じて児童に考えさせ、実践させる。 ・学校給食を活用し、健全な食生活と食事マナーの習得に取り組む。給食を残さず食べる。95%以上。食事中・食後のマナーの定着を図る。 ・楽しい会食を工夫できる児童を育てる。	食育担当 (内村)	・学級活動や給食週間の取組を通して指導する。 ・全職員による給食指導を行う。高学年が家庭科で学習した会食の仕方等、給食時間を利用して全児童に広める。
	●心の教育	道徳教育の推進	・年1回以上、全学級でふれあい道徳の授業公開を行う。	道徳担当 (吉浦)	・生命尊重・家族愛を中心とした価値項目で授業を実践し、よりよい生き方を保護者と一緒に考えさせる。
	●いじめの問題への対応	人権教育の充実	・児童一人ひとりが大切にされる学校・学級をめざす。 ・「いじめ0」の継続。 ・全職員で取り組み、児童の人権意識を高める。	人権・同和教育担当 (吉浦)	・月に1回人権教室の実施(学期に1回、校長・教頭・養護教諭も行う)。 ・毎学期、全校での人権学習・集会の実施。 ・保健の「いのちの教育」とタイアップした授業の実践。 ・12月の全校人権集会の実施。 ・月1回の「心のアンケート」を活用した、各児童の実態に応じたより具体的な指導の実践。
	○生徒指導	きめ細かな個別指導の充実	・生活の約束『4つのあ』活動の定着を図る。『4つのあ』を進んでできる児童が100%。 ・基本的な行動様式の定着を図り、気になる子どもに対して全職員で支援する。 ・安全教育の指導の徹底を図る。	生徒指導担当 (中野)	・「あいさつ・あんぜん・ありがとう・あとしまつ」の活動ができた児童をスターシールなどを活用してほめる。全校の場でも紹介する。 ・生徒指導・教育相談連絡会を毎月開き、気になる子どもに対して、全職員共通理解の上で、きめ細かに対応する。 ・毎日の全校帰りの会で、交通安全や防犯意識を高める指導を行う。

③ 地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校づくりを行う。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員・児童・保護者の周知率を9割以上とする。	校長	・職員会議、全校集会等で説明する。 ・学校便り、山村留学総会・育友会総会などで周知し、具体的な取り組みを説明する。 ・地域参加の各行事ごとに周知を図る。
	○開かれた学校作り	開かれた学校作りの推進	・学級だより、学校だより、学校ホームページ等による情報発信を拡大する。 ・保護者だけでなく、地域の方も含めた学校行事を充実させる。	校長 教頭	・学校便りは、保護者・山村留学生の両親・地域全戸に配布する。 ・実親には、学級便りや学校での子どもの様子が分かる写真等も一緒に送る。 ・「総合的な学習の時間」の内容・ボランティア活動の内容等を見直し、児童のいない地区へも積極的に職員・児童が出かけ、連携を図る。 ・学校の活動をアピールし、地域の方の学校行事への参加を促す。
特定課題	○山村留学の継続・発展	山村留学の継続・発展	・保護者・地域と協力し山村留学の継続・発展ができる学校をめざす。	山村留学担当 (教頭・吉浦)	・山村留学実行委員会と協力して、山村留学のできる学校としてのよさを工夫してアピールする。 ・地域に根ざした学校として、様々な行事を地域の方と一体になって実施する。また、里親方式と寮方式の併用による方式を確立していく。 ・家庭、地域、学校の役割分担を明確にするとともに、留学生の期待に応えられるように里親さんへの支援体制や週末里親(2日里親)制などの新たな取り組み構築する。



本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○教員の資質向上	教職員の服務規律の保持に対する意識向上	教職員の服務規律の保持に対する意識を向上する。	教頭	・職員会議や連絡会で、毎回服務規律について話題を提示し、職員の意識を高める。 ・通知文は、全員に配布し、必ず管理職より補足説明をする。 ・日常的に事案・事件、事故の情報提供を行う。
	○危機管理	職員の危機管理の意識向上と危機管理体制の整備の充実	危機管理マニュアルをもとに不審者侵入を始めとする避難訓練で全員が自分の役割を遂行する。	教頭 中野	・本校の実態に応じた危機管理マニュアルを作成する。 ・年3回以上の避難訓練を行う。 ・避難訓練の1回は不審者侵入に対するものにする。

●は共通評価項目、○は独自評価項目